

盛衰通記

十二

姫

戦記

庫	文	閣	内
五	三	三	和
函	三	四	書
七	三	七	類
架	冊	〇	
		九	
		號	

(九才)

第七

共卅三

内閣文庫	
番號	和 34709
冊數	33 (9)
函號	151 60

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

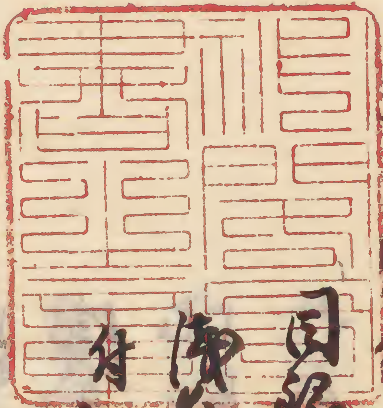


© Kodak, 2007 TM: Kodak



盛衰通記卷第十二

目錄



御井助政被印上取今頃五城と梅小宮殿
付家系後分頃事



鷹司政平云薨御 付 高極之乳死云云事

高極之秀齊小宮殿事

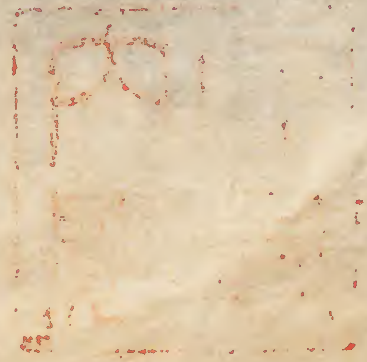
御見入左軍是見付 御井之伏合地入款陣事

小宮殿夜討之事

上平城軍海定付乞于加勢六角事

御井助政之願付 平親王將門之事

御井清智之命者系事



末後六角為京貴山宮城事

初念辨出張山宮表付末後六角為警務事

末後助政若上平城付末後末後和平事

末後若仕上平付助政流初名之館事

末後入左春向沂沂六角京事

末後末後若入仕付守實左之林經紀事

末後入左再初謀叛末後反事

末後入左病死事

比敷山中堂依表將軍家出電山事

六角定於出張山付阿高王石境事

末後助政追拂六角警事

末後貴山山破神山兩城付自為城臣事

六角定於再張陣小宮表事

末後破神夜込京丸山宮城事

初念左為入門是人之初念孝事

小宮家子孫山事

末後宮城臣事

末後與管領輝遠付公家零為事

將軍仁官山系早雲死去河至京初事

細川院元因之京不收付京合戰事

主上御即位付中野寺代付紅准門詔

并將軍沒為京初事

蜀後將軍官下之年

日本使節燒於寧波府付勢田以秋院宣

并也來及春日訪之年

至晴之石法亦來訪之年

后柏京院崩御後高良院改祚

并六角定於城託之年

古河公方為基息元報心弟氏德緣也

并走湯山急訪之年

武列海軍寺辨丸天之年

武臣江戶合戰上杉憲房卒去

并生實為明之年

生實為明源金澄妨之年

桂川軍之年

將軍蜀曉之於房付桂川信康他親之位家督事

桂川信康弟叔島崎付婚姻之年

三民宇理合戰付信康以叔父親登討死之年

天王寺合戰執事細川之團入及討事

法台百官於房之年

大内家風衰祀老臣未誅之年

武列府中合戰付加那山田宗付事

上

盛衰通紀卷第十

海井助政破却上級今渡あ城を搦小谷城

付家系後今渡事

海井ははるく考(京極出勢あはは小勢にて九代
られてハ叶あ海一と上級今渡あ城を破却して小
谷の城をとりて翌夜となくを糧と入れあ又翌夜を
奪に敵より奪る事も計く一とて仔細大橋小谷の
後のはれをきあは川原一助政の所と虎中あ山の間に
勢を伏せ新治年海井大野本三田村ハ小谷山のあは
殊一敵あ甚あはハ云ふより出とをきと討んと謀り
されハあは修女を糧と九入りハ事尾上(中)ハ家系

此の仁氏も故人よりあつた助政を埋て返さ家城を治る
器とて壘と作らたて門櫓をたつていふ今後とていふ
う後人春向より陳多ハ助政ハ森城ハ宗九あれも
多より老あまに小笠もいふ人丈とけいり
城を治るをありとなく東穆反(指)ありて小笠の城乃
要害とのとぬ中に責務ありと再三いふあれも足
多ありにせんそいふ所らとて春向ハよく日教を經ハ
御井近居大事ありんといふま天竺入を依て春向ハ
より上平へあり京極の老長もこれハ皆家系と回さし
之中に大津淳正も言を命二人ハ後人より知れぬこと
一決せんは後人ハ言のあつて小笠ハ出するも延行

あつた必出大事ありとていふは言ハ理多也大
今後も改め善後むすべし御政を止むにまふ入すといふ
ある春向も力を尾とていふこと門と知るおに言多
は殿ハゆりくといふ言のありき軍ハまらあり
而士の主ハぬとて言あり尾上城海を去るとに
永正十二年十二月六日上坂系系ハ再ハ今後(梅)り

鷹司政幸公薨逝後京極より死去す事
今年永正十四年ハ二十二年ハ法中ハ持多り物に七
二系大を及実者云上ハ中園白の事と執り治是園白
鷹司兼輔云存障ありとや法政幸公同年七月廿
七十二歳で薨りありふけ人の一生の常を記すに大果報

江州の先ありて八千人及び六月十四年五月十二日上平と
立て小谷城(向ふ)一番磯地を多の左支子息保三希中田伯
耆も息希刀代東地左多先赤尾守正希之(中)中(中)也
磯地保三希八軍を以に令せらる渠ハ磯内(中)くれあき精去
めて五人法母十女来と村(中)根矢とありてを矢と射る母ハ
三町程討(中)れハ世人落西保三希と(中)二番井ノ口
今村西地後多河内三番ハあき(中)今井惣谷月ヶ(中)
小豆中山口番(中)北田林本雨宮田下坂新庄(中)番(中)
去肥(中)吹了場(中)百(中)塚(中)多(中)賀(中)山(中)上(中)田(中)宮(中)八(中)段(中)中(中)
言(中)松(中)希(中)言(中)秀(中)一(中)族(中)老(中)臣(中)了(中)早(中)に(中)塚(中)下(中)太(中)上(中)坂(中)治(中)部(中)を(中)捕(中)
家(中)系(中)右(中)江(中)見(中)春(中)向(中)父(中)子(中)と(中)定(中)る(中)濱(中)井(中)と(中)い(中)る(中)ハ(中)ま(中)れ(中)し(中)た(中)と(中)

一隊二隊と破るも大勢あきハ新(中)め(中)ハ(中)丸(中)こ(中)あら(中)れ(中)む(中)謀(中)を(中)儲(中)
先(中)と(中)い(中)何(中)れ(中)大(中)稽(中)母(中)百(中)人(中)と(中)信(中)て(中)撤(中)外(中)乃(中)山(中)中(中)依(中)て(中)款(中)乃(中)
勢(中)多(中)れ(中)と(中)い(中)せ(中)し(中)別(中)城(中)内(中)より(中)助(中)政(中)希(中)て(中)出(中)ん(中)と(中)約束(中)し(中)り(中)
赤松の侍海山(中)左(中)衛(中)尉(中)ハ(中)大(中)判(中)の(中)老(中)也(中)一(中)ら(中)赤(中)松(中)に(中)仕(中)て(中)ハ
と(中)く(中)あ(中)る(中)と(中)い(中)や(中)心(中)の(中)先(中)助(中)政(中)降(中)り(中)り(中)赤(中)尾(中)要(中)也(中)希(中)
と(中)い(中)る(中)希(中)も(中)同(中)名(中)小(中)田(中)希(中)と(中)信(中)し(中)助(中)政(中)母(中)通(中)中(中)又(中)赤(中)松(中)家(中)に(中)
帳(中)を(中)と(中)り(中)の(中)帳(中)に(中)濱(中)井(中)に(中)信(中)し(中)と(中)い(中)外(中)河(中)内(中)希(中)の(中)丸(中)多(中)く(中)こ(中)も
と(中)り(中)六月(中)十六(中)日(中)母(中)ハ(中)江(中)州(中)河(中)内(中)三(中)河(中)も(中)子(中)息(中)方(中)希(中)希(中)と(中)信(中)し(中)
八十七騎濱井に与(中)し(中)り(中)

濱(中)入(中)る(中)軍(中)是(中)見(中)付(中)濱(中)井(中)に(中)伏(中)去(中)馳(中)入(中)款(中)陳(中)事(中)一(中)
同十七日春向(中)右(中)百(中)騎(中)母(中)て(中)赤(中)松(中)言(中)秀(中)の(中)陣(中)ま(中)り(中)明(中)石(中)の(中)軍(中)使(中)

いかに同少時中老臣等勢を以て後身をもて其族をたたむ家
系春向ありと不慮見ありむ其れも海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ
あきのの母ては一た今波の太敵とて定て十死乃合我
仕らん小谷一勢あましく東南の山に伏と至化陣ハ海井ハ
中谷中一はまきくらん是ホのすも出さるありて押一の多と
おれ小谷と改らる一一二の倭ハ或ハあ武者或ハあ武者
に老切の人改たぬと一三番倭ハは小谷名譽ある人と先
妻れ強地保之希千箇伯耆とき大力の強をを左右の
物あまらるまふみ子ハ浮武者はあうて時ふと入合助政と
空二の合戦仕らんとすも老臣もけつらん既よをを
けうくう今更愛一ととしとふま中ふあ聖と大陣中ハ

の心一はたそ外同心あき春向う謀さつくに如より
海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ
み子海北赤尾に二百人添て小谷の末乃山北をふ伏一
敵身ハ大子の門より突出んと定り海井ハ春向ハあ聖大
陣に送て海井ハ伏と至き山と將せんと強て軍を三
百人名譽出り一は虎山お山の八百餘人包り一出らる
八百人の老くと二百人戦ひあふ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ
あ聖とあれハ太勢討さるうされも伏と將出り一は
海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ
乃う切られて海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ海井ハ
軍あはは母様に入らんとす候とえはハ事人少し知さくが

又合身如よ東の伏阿閉以下系志礼福ハ城人ときを定め
乃ち志ふハ帑也希也ハ示一合んとゆひ合りハまきのふ
物出さんとうとふ阿閉扱ハ山もあうを一ト先人を討ハ
人を制せよとハ言うハ仕けんとして同十九日の夜亥の刻阿閉
父子海北希尾二百人をむと阿閉切阿と言ハすハとは
と定め彼如と志のひ出で款のハ一返ハまらハふまこの事
あきハ希也勤礼中城をたきに款ハ小谷城ハ入りて
己ハ五月月中旬より六月上旬迄をいひて書ありり

小谷城夜討の事

後井助政ハ希也乃阿閉の神とえ淋一六月三日の夜亥夜打
せんとは先順礼の志る負指と一松ハ志せとハは世武の

よみ神ハ一御徳と志希也ハ討り初りるとや刀振えの
鞘ハ紙と幅一寸にきりて之ハあみ付させ東阿南北志
たきと志と定め志法より之りて三日乃夜と社より希也第一
海井ハ能く志のひとほりて款中の事と志細よゆて軍と仕
り先ハ伊波大務ハ志のひとほりて此門とよくと志せハ系
結きた春向ハ城と志阿閉ハ用と一海北希尾ハ二百
餘人ハ阿閉村の中に志のひ入て火とけ希尾の中陣ハ入りて
くは月ハ入てくまハ一あらハあきハあきハ希尾方ハ志との
事多ハ希也と志にて迎あう大務希尾も志もあうく
迎道屋より海北希尾ハ志ハ一に變化ハて戦ハ
ハ阿閉の志りて志して後井助政ハ百人城より打て出つ阿閉

以下も言人曰くうらの山より千部一物ひし六十を亦乃
陣不一家みさまきうち交くに迎ひりうま伴に渡え父
子ハちりも腫せき侮を立て助政と我ひしうたあうりに
味方ありし久お初とありて家子衆を集めて尾上城へ
攻りし時海州若狭より赤尾海之帯ハ川取歌の岸に居り結
二三百人上平河と高松と見てこれハ追ひ討んと牛馬を
上坂掃部上坂八高を渡り踏みしく掃部ハ赤尾にさうせ
八高より海州よりせんり一人の部守も一処ハ討死せし若
八人と名付けしものに高松ハ上平城へあけ入りしあまの討死
首級二高八十條級討死せしもの若早二人と交へし掃部
方ハ討死三十七人負傷二十餘人ありしと名

上平城軍評定之付乞加勢カ六角事

上平城ハ今交の和辱お代未父の那謹多れハ何とを以恨を
殺しんとす七交ハ佐々木六角定頼カ勢と乞ふ定頼ハ從縁せし
ほ長徳もP名ハ高松と家人ハ亡りさせ六角よりあふぬ教
せハ世のゆくよ御一様なりしは浅井ハ高松と七一ても
六角にほふものありしを名くカ勢ありしとP名れハ別同心のたす
とを仕りしり

浅井助政史記 平親王二年

永正十四年七月十三日暴風浩ありりしに浅井助政ハ弟穀
兼に合衆浅木と出り千里民を救ひり又家人亦う衆にりりて
浅井助政ハ侮前よりあり兄弟高平ハ赤尾海河をたす系野新高

物念の陣母あり飽き思を討てり時其物念をたぬや
今更の恥を雪うんとて極てあふより又あふり之國を隔とれ
急よ後徳もぬとて一とやわけ勢のみ家て上平を改め
果も亦か替せんとし海井たよ悦ひ兼てくとい存はれ
出軍を乃はるこをひて先ひといの事作の進れもあふ
一として海井物念あ替一百あふ十月朔日上平城押あ
上平城の款あま一まとい心ひもよとて俄の事あ城を防き
筆とあげて矢面めと乞ひあ極より使者とて大津海正河
まはるあうて大橋あ極ももつて和と乞ひ自今以後は
上坂京重のほとめ一とて海井助政とあ極の名代とせん
江北の士と帝等のとて一とてあ極とあ極をへ一とて助政
是とあて全くあ極に恨を一上坂京重死て存子息あり
某に害んあゆ人はたしとあ極一妙よ忠と向うにう
信のあひ是とてい九流わぬ大和年を作とせん林に向は海井
とて上坂うとてい名代とあ上平城のり人と帝と一あ極と
あ極せんより面目は上坂一去なりあ極海正あ極いは又
はうとて一あ極あ極易あり一此中あ極紙を給りてとてあ極
あふあ極一と首と削一と一は育るあ極に於ては畏入りて
程又物念をたぬと示し命を活きひく城と責りて是はあ極
中より謀めてかくて時刻を延し六角勢をい入人謀も知れ
一とて程く強くあ極物念あ極は討てりあ極の族あ極流れ
大軍の二乃あ極よとて一とてあ極あ極は倍たのあめに

西一丸とてハハ海一室と書候せんともりさるる

海井出仕末松家付中野大佐林縁純三平一

永正十三年も通ての家十三年曆印の契とて海井卯改ハ
上平(出仕せん)ともぬ(大松を)とて海之春向う六角(村)
次甲海(上平)あり(高秀)とて(此甲)てに(出仕)
出用(山む)海井(守)て(む)も(左)松(の)事(ハ)虚(候)あ(ま)
あり(た)と(実)も(せ)よ(家)と(出仕)せん(ハ)松(一)と(評)せん
運命(今)て(討)て(て)ハ(治)て(打)多(く)恨(を)取(一)と(て)正月
三日(赤尾)孫(三)部(海)水(若)島(の)戦(二)人(を)見(一)て(上)下(二)百(餘)人
上平(系)に(秀)信(信)の(討)面(一)松(一)食(意)せ(ら)る(ま)及(暇)給(う)
赤尾(出)て(大)は(孫)三(と)松(と)治(事)の(若)島(一)見(中)に(て)春(向)う
六角(の)は(上)平(秀)の(向)い(と)う(孫)三(と)九(次)世(一)月(一)ハ(海)井(一)
之(上)末(松)及(六角)あ(家)か(出)る(回)文(の)一(流)一(春)向(う)自(分)の(状)
具(に)披(見)一(ぬ)某(と)誅(せん)との(中)止(有)う(と)を(取)り(て)家(人)も
恨(ま)ん(と)し(其)助(政)今(く)九(六)存(せ)き(君)を(思)あ(お)せ(も)
巨(ハ)臣(者)一(と)存(一)今(日)出(仕)と(ぬ)助(政)不(可)あ(く)付(一)人(女)
作(付)れ(中)殿(致)方(ま)り(し)國(を)踏(ま)た(に)及(ま)り(と)て(一)
いて(社)を(立)ぬ(孫)三(も)赤(西)一(と)松(一)と(高)秀(一)と(く)と(一)
九(六)い(は)る(春)向(の)戲(を)あ(て)い(ら)る(妻)同(か)う(を)せ(ん)と(あ)き(ハ)
と(せ)さ(り)り(助)政(ハ)上(平)城(を)出(て)高(志)佐(野)ハ(中)野(大)佐(林)
志(一)あ(り)て(高)秀(一)と(り)

定實の神の以如く孫三のより社書近江國津島郡に在る也

左麓と右麓のさうえち和記河原の者よてまきあは
川橋氏の女こ子七人あり其負一々朝夕の煙も漸とえ
うちあり梅色も美人そてまきあはの山路をりりある夜
宿敷原の女客十人乃童子とばきてありの給ふは
永居ぬ西方にありんか東南に母を室にありても隠
せ地よりても隠せり地より音と妙ありは界
よてハ音と観を辨月宮得にて海智急海あり汝ら
宿と貸し一とこ之群をんハ汝らま七代の家まると
汝ら一一家あはたぬ氣ハ地形感應よ依てこそもく
當所よ先ッ左の青龍乃西曲あり日照言山の花芝のこ
燃連法所の浪よたなく存よ白虎乃佐社あり言等並對
のあは鹿苑草堂の月を舞つ前よ朱雀の竹林あり畢
竟空寂の風六境六識の雲を拂ふはよ玄武の龜塚
あり用之取一の蓮葉を光を死乃葉と裁たり四神相應
の地より氣向ありこのふを慶畏て出法を別也よ今
あはのく包守乃白蛇と観し七中の大救生一左麓
日くに家まにあり七珠花よ海あり故て社と建立し
空契大の神とあはるまのありあつ天蓋も杉とあ
十ら童子は第一宿猛童子あり今の梨岡の傘杉是や
天竺よてハ梨車良とハあり梨岡の山前とハや天智
帝より彼朱雀の地と神傳科よあ附せらる今の空契
神の心是や地と権現三のまハ地普賢菩薩劫後の

祇十禪作、地花薩埵あり、物利天よて佛の空に附と
しけ、佛中身の存作、六環令揚、振威拔苦、一顯の
摩尼、雨物て救く、多と、六虚空、地よ、る日、河りとも
淋、及人をま、つる時、あり、海、一、教、向の、神、向山、柱、現、八十一
西、觀音や、杵、字、聖、神、字、と、り、天、や、是、を、虚、空、花、と、り、ふ、こ
天、と、り、乃、父、別、令、割、界、之、契、と、り、地、多、り、是、を、地、花、と、り、ふ、地
と、り、母、と、り、胎、花、界、之、神、と、り、是、觀、音、と、り、ふ、四、不、二、と、神、と、り
薩、悉、地、之、第、三、才、て、之、と、り、亦、亦、王、と、り、不、仍、て、大、乘、才、天、如、こ
珠、王、と、り、や、以、神、ハ、天、地、の、と、り、の、陰、陽、の、奥、託、之、過、去、今、來
救、却、の、お、に、空、王、佛、の、由、來、に、一、々、一、つ、の、神、呪、を、り、て、り、り
こ、り、と、大、後、神、と、り、り、三、世、法、佛、の、化、身、を、助、け、一、切、を、生、の
實、と、り、く、ふ、亦、亦、聖、よ、ハ、三、者、の、苦、海、に、り、り、り、て、り、淋、及、り、
横、よ、ハ、十、方、樂、邦、と、り、經、て、り、て、接、引、を、依、り、居、と、西、北、に、
ト、て、任、風、存、て、忍、雲、の、怪、身、と、り、を、拂、ひ、威、を、東、南、に、振、り、て、
分、負、蝦、と、り、由、地、の、蟻、に、畏、ふ、匂、よ、ハ、三、神、の、義、益、を、除、て、速、よ、
空、稻、の、潤、家、よ、り、ふ、物、中、日、中、ハ、三、光、天、子、乃、奧、路、大、神、と、り
の、海、花、多、る、に、亦、才、の、冥、發、空、契、の、神、徳、と、り、堂、く、あり、
か、亦、亦、と、り、虚、地、亦、あり、(か、助、也、も、湯、作、り、て、神、を、一、定、を、細、り、
丹、波、を、お、り、て、山、名、一、社、ハ、ウ、え、り、り、り、り、)

海、入、た、再、劫、淋、叛、亦、極、反、事、
海、入、た、年、路、の、契、と、り、上、平、(ま、り、先、日、石、子、(亦、り、六、角、反、
の、り、後、一、に、ハ、い、を、亦、亦、あり、亦、後、は、り、ん、と、ふ、と、り、亦、亦、亦、下、助、反、

三日に春向一書をさる教をうりたふありはよき事六角一
りての八月一に大津津正舟のておもきを恨むありは多き
軍にてお負て家を失ひしよりあり一書も政法の家業に任せ
これ又今も津井に伝ふよ六角一お樂よ書ありはよき事
おれは津井の八上飯の執権せし今津井の執権といふ事遠り
お楽一書一先君の忠二男尚君の中やされは國士の善教も強
津井の上飯の善教を人の心おせし必國の亂とありは六角一は
一族こそれと一書よはよき事一又津井の隠謀を知りしと一は
仍ありし一書よはよき事おれは老臣と一合せしとて在りは
皆六角一をたす津井近所あきては中は大津津正船藏九京
舟に因せし六角一家の働もたふありは終一書も津井よりし書
さる事あり一又お念か書せは六角一を亡めん物ありは江の中に
誰か津井と牛角のものありしの中に津井のいふ事おれは
津井の書あり一書も利運向一書ありし時をたふしつふに
春向も書ありしは老臣もこくは合し書一書は大津津船藏
お人は軍必書ありし一書ありしはお人の書ありしは
各一書よはよき事一書よはよき事一書よはよき事一書よはよき事
おれはありは江の橋をほきて押し取らばおれは書ありしは
押し取らばおれの書ありしは津井の書ありしは春向の書ありしは
ゆて津井の軍書ありしはおれは書ありしはおれは書ありしは
書ありしはおれは書ありしはおれは書ありしはおれは書ありしは
押し取らばおれは書ありしはおれは書ありしはおれは書ありしは

塔を建らん一と中に松葉近空層を却渡山を
みみし一基抄くそ海をくまの塔の影射日に映して
はゆふ移るあふ清をくまの寂照は塔と記録して箱舟
細の天にいりて海へ流さるるくまの定基よまひ
まをく塔の影を

茅屋無人快病起 香爐有火向西眠

笙歌遙聞孤雲上 聖衆來迎落日前

寛弘三年二月彼記録の箱橋別所を浦(流)を
増さるの住僧を伏見の一奏聞しこれに初使とま
られぬし切あつるの初使庸を雲に西夜し
はるを移らるるに中を示しこの絵く阿言と乃塔

とねんと歎せ山中中ふ寂しうて夜との曇るあり
はあま法本山の光延と不持人あり彼に在るに渠
尸ハをまじり大と定烟のりま中に白火足はのよ
は山の巔みりりくまの塚のあふ城三層はゆりて
礼を佛神より是よりかよるく初しと不仍て初せ
足きハるまの人守の石塔光をまあり初は寺に聖徳
太子四十六の伽藍の塔影ありたに初初初と
くし長尾よりは阿育王の石塔とハヤ今顔
大東園に各人の筆法ゆりゆとそトリス

清井の夜軍と極めて初陣(初使)といをせり

清井の夜軍と極めて初陣(初使)といをせり

今度御前へ加勢と乞とも合せせし仍て^ひ西勢も無く
先づ一市おも除泰と云く御色元助政ハ千人一人ハあり
まも除泰せし一足板あり中九は法せし乞と激し之ひ
あふ急工城を責しして取正十五年四月十日六角勢を
勢方子搦手より攻るる城申す時の変とも不合して
に防きて然る小勢の極まをせしりりされ大よく防く
勢も云を遠より南井りいよく尚兵城を小勢と見これによも
逆者せんともいふあり一四十二百の夜まは六角勢を夜討
せんと二三百あり百人休きを留て助政ハ三百人夜討
の大勢しりち和をせし油一割中一志のひの共二千人を
入すり火を放てし物しりち和をせし油一割中一志のひの共二千人を
ふハ西宮のあくるまうとれハちね六角の申陣一合天も存く
勢しに悲の乃若ハ火を起しりハ一おもさし一をちね左様一遊
りり山崎目黒多ハ合を戦ふ助政ハ二の傷一川て入家
二陣阿閉井口百人責く所に蒲生二子百人目黒多山崎
戦中しともあとの事とつち河ね下もあくるまうとれ
ホして諸軍一交りくまは角八方へあけりりり助政ハ首級
者七十六者たて長進をぬし合川地頭山の敵もあくるて者
九ハをゆる人を引九一とて夜の暗きに小勢の城へ入
りて空戦ハを先く立て敵兵ハはよあうてうとれしに仔細
法業五百人追うけしに皆逃殺りて空戦のるりり百騎斗
戦ひしに藩代君頼の者六十七人討死し空戦ハ虎口を免

此て石多敷一迎入り、高松藩もたに上平一迎入ふは時大津
稀織、今交ハ定て助政申渡居も、口之、其人、入居も、時未
いとあき、安ひて、P、名と名

浪井政山、中山、破地山、あ敷、舟、自、あ、敷、江、を、ま、ま、

高松、古、角、ハ、松、軍、一、り、れ、九、山、中、山、破、地、山、ハ、こ、こ、て、あ、り、
り、と、浪、井、方、より、赤、尾、駿、河、も、同、孫、之、弟、父、子、阿、閉、を、村、ホ
五、百、餘、人、十、二、百、の、勢、より、山、中、山、責、々、向、に、城、中、ハ、浪、見
足、弟、あ、ま、さ、海、角、も、然、長、沙、多、ホ、身、と、鶴、毛、比、一、て、防、り、
破、地、山、ハ、大、橋、あ、ま、修、り、井、に、西、地、ホ、子、二、百、人、せ、あ、あ、あ、あ、
ハ、城、中、ハ、五、田、伯、老、も、破、地、を、ら、ち、申、入、同、孫、之、弟、西、山、等、一、を、籠
り、り、浪、井、助、政、ハ、三、百、餘、騎、申、入、浪、井、よ、い、之、より、破、地、破、地

浪、見、弟、ハ、七、人、法、十、七、名、と、あり、て、あ、ま、と、村、掃、ハ、あ、あ、あ、あ、
こ、こ、の、を、こ、こ、の、を、見、て、あ、ま、と、浪、見、弟、を、う、海、り、り、
こ、こ、にも、浪、見、弟、ハ、終、身、子、孫、中、三、騎、申、入、あ、あ、あ、あ、村、子、を、あ、
村、を、せ、り、る、あ、あ、あ、あ、は、く、こ、こ、て、あ、ま、と、浪、見、弟、三、百、人、
を、海、へ、と、ま、ま、を、海、へ、入、り、り、て、浪、見、弟、に、従、人、と、ま、ま、あ、あ、
浪、見、弟、ハ、弟、ホ、の、足、見、あ、あ、あ、あ、川、入、家、を、上、さ、く、川、と、と、ち
り、ハ、浪、井、も、ま、ま、川、を、り、り、又、山、中、山、破、地、ハ、浪、見、先、弟、と、赤、尾
孫、之、弟、と、ま、ま、と、親、ハ、赤、尾、政、之、危、く、し、を、阿、閉、ホ、う、頼、あ、て
川、五、年、城、を、川、入、り、浪、井、ハ、弟、に、ち、ま、あ、あ、ハ、山、中、山、破、地、ハ、
あ、ま、と、一、て、浪、見、弟、の、ま、ま、を、は、の、や、一、ま、ま、と、山、中、山、破、地、川、入、り、
山、中、山、破、地、山、中、山、破、地、の、ま、ま、浪、井、の、勢、を、進、ち、ら、り、一、た、て、古、角、

酒を一首殺あてて中級討たれり也をいひてやむを
せられははいさむのに浅井近居ハ骨折ましくして六角に
は軍いづれんは後中よりはひきて定規の老父を殺入た
るをありし定規に向ひ足下ハおと浅井と軍一にて
一軍も利をいひ家の相争是にさすは後軍の勢ハ
徳和を討まんハソの討と討をいひ延川せハ山印山も破
ゆ山も浅井にあらはしとてあらはしなり

六角定規再出張小笠原表一軍

六角ハ永永之雲影及三井大塚目黒田尾及長尾山崎
平井の圍る所取大勢日此の蒲生小倉以下二万二千
百人此正十年六月十一日石寺と立て先陣小旗山嶽とて
此の軍を并母浪人ホ子八百人並極る秀とて約とて國
出張山印山破ゆ山の城も先陣せんは徳和と浅井
方ハ款大勢ありハ二乃防戦して討死せんといふも
又長く城を打とむる所をいひて討死せんといふも
如勢と乞いといふも河の助政はしくして徳和ハ如勢
とも如勢せ海一毎年く勢と出ハ一回の弊とて身
老臣等合兵をまし上軍の殺ありては合戦後ハ六年も
家身にて世の人にもはるありは合戦後ハ六年も
く徳和はきみしく徳和く徳和ハ合戦後ハ六年も
く徳和はきみしく徳和く徳和ハ合戦後ハ六年も
合戦後軍にせんといふ徳和と同ハ徳和を看て約しなり

そんごうおほくともふかーりりあひの六角ハ七段に在り
村を捨て村をくめりりあひハ八段村に陣を張り
をさす知りてさすともふかーりり城をく攻め討共ハ
防りり五月十日ハ六月七日と責れとも城をく破れぬハ
あひも返りぬりり

吉田源氏夜逃ふる大なる事

この破れ源三郎ハ兄の源二郎分の源十郎吉田帯刀
曰は九郎母向のりるハ是牛の山城と江州一玉の勢たう
破りぬぬハ他の勢も面白きりあひやむり元弘
建武のハ須山小足山うまを城ハ恐ハ入て城をく破れぬ
お代未だのさるるとりりいさやあひりり勢をたて大なる

の城と夜逃ふる事と信世に油をーりりいさやあひりり
六月七日の夜僅ハ百余人山田口ハ恐ハ入志のハの東田名城
先ハ城をく破れ入城ハあひに火をたけあひさりて攻れハ
城をく破れぬといりりくに城をく破れぬといりり
二十八騎討取てをさすといりり火と油をく六角ハ源三郎
あひけいりてあひ人ハて馳あるともあひ人二百人追て
あり大なるにありハ丈夫持るとも大なるのさるる命ハ
く迎りりハ助攻合身大和守并に井口と細くハ教訓
ハあひ渡と背をかくあひせりりり未結とといりりあひ
海を流して船をりりり助攻ハ敵大なるを破れぬといりり
小言を攻ハハ大なるハ破れ源三郎ハあひ必城を打破

西一極をを用きし彼矢面を防けしと用きしは改ま
六月廿の未のより六角京極の小笠を攻めしは一万二千一人に
あつて攻めしは破れ源常八大山守殿の小笠を目下に見
たつて例の大夫に大夫を以て村もに楯も是も村費れて
手負死人あつたりと敵味方三百之夜責合しり共に精力
そつてあつても攻めを返さずされた破れ八日夜の事よ矢を
放るにあつて助政合を喰て居る也破れ矢と是して十
常の大夫は笛行のともあつたを以てあり悔あつた様を
村破り書子の事柄村つうては海のをあ板舟篋中計そ
村込りり是より海楯をせよして大山守の矢を防り

物念を帯たるは是を見考案し

轉米國物念を帯たるは是を見考案し
今交六角京極あ家とりつて海舟を責む先日出籠下と成
事ハ法由み隠金ありは極のあつた物念乃に御守あつと
いふまへの老臣ホハ知く今及いあ佐兵此軍必死の志
あつん物大御井より加勢を乞ひ出をへし少佐あつた志を
あつて物あり毎年くまどかし一國に弊もあつとく
いぬものつふをたついらくにはあゆ先祖物念新を
負直の入た粉骨の事あつれも當時はあつても士卒も我を
是れ給つと悔をて物仕を以て居るも加勢のよりいふより
老兵等もあつた事つをむと信しは西軍あつた物念ま
一番に亡あつた事よとあつたり

小笠原の賑ふ事

助政は大勢に困乏終西の糧をて為城を——とてして湯をのりけ
東地なるゆい元東江兵余古の元代の所成りて被宿もあくつり
民も志をいむりゆい——毛も縁母をてなるゆに若人を付てひそくに
城を起し余古の兵民とていひ紙少旗白布にしろ赤帯の紋きせて
お金幣とてせり世の暖より本中山田部にお島の人多き揚げ
何と能ふを起しとて城をすも時とありせ又柳ヶ原東地なる山も
このとく——とて款をおき——とてあく人きりていひ目前にて三人
討て棄——とてお包きとていひとてあく人きりていひ目前にて三人
十八日に城を起て余古にわけて百餘りの言七人といひ出柳ヶ原
表大言山東野山なる山の梅く——に旅をゆい付志はる勤川の西地

丹波守大おと——とて三百餘騎の民者人申申山も千石人東地
左のぬおと——とて取山十五年六月廿日件の山——おとす二十餘ヶ
所の粮糧とあれは城もおとす火をあけとてあく人きりていひ
お倉りは流をりいと登初を四方よりい貝後ありとていひ凡
二三百人の幣とていひ——とてお籠らとていひ叶ありとて定戦軍使を
とせり人を引揚しとていひ——とて使のともぬ赤い山田久い
六角幣ハハ後の程めらる夫てりり東極幣も同く近りりともや
ちお定れとていひとてあく人きりていひ——とて定戦軍使を
引込て油井に逃討せんとていひ——とてあく人きりていひ
これハ城共ハ若人始——とてあく人きりていひ——とて定戦軍使を
若思言ハお村よりとていひ——とてあく人きりていひ——とて定戦軍使を

を召集めて御軍を討つ。合戦もろもろ十日あり。御軍制。給とも

双方用ひまゝに元元七日に御軍を討つ七日より十七日まで戦ひ。程々

高岡うち負て江名(退け)元元之治(入勢)て威を振ひ。後代

より元元を執り。同年六月。國を治り。又攻め。元元に元元

御軍の御軍を討つ。元元之治のまゝを治り。元元之治の

陣中。御軍を討つ。元元之治のまゝを治り。元元之治の

又元元に戦を。元元之治のまゝを治り。元元之治の

主上御即位。御軍を討つ。元元之治のまゝを治り。元元之治の

御軍を討つ。元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

元元之治のまゝを治り。元元之治の

乃て細川及永と号し、河内権威を振り

日本使節焼於寧波府熱田の神滝堂

并 全船及春日詣之事

其年之秋、金入たる軍の作と稱し、高松と社を
大の(を)申す元名唐人(を)素(と)い(ひ)の日本に(を)と
使(と)申すも大の(一)使者(を)い(ひ)り(て)の(一)は(時)大(内)介(も)因(陪)
より高松とあり、(一)宗設(と)い(ふ)の(一)を(使)と(す)り、彼(を)使(寧)波
府(と)い(ふ)也、(一)も(自)の(使)宗(設)は(先)よ(志)者(一)は(先)一(也)
と(ふ)事(は)い(は)さ(ま)な(ら)ず、寧(波)府(の)を(以)り(終)格
して(事)先(出)て(ま)り(出)に(あ)り、宗(設)は(一)は(一)は(一)恨(ま)て(軍)を
も(古)人(よ)り(寧)波(府)へ(と)り、(一)を(府)を(燒)拂(ふ)依(の)事(ゆ)へ

ら(ら)之(一)一(一)而(を)因(陪)の(勢)大(内)介(の)度(人)を(討)殺(し)監(妨)
一(一)事(も)も(ら)ち(と)ら(せ)と(し)て(事)々(う)方(押)寄(し)に(事)々
と(す)く(迎)て(大)内(入)家(大)内(の)あ(れ)と(そ)く(て)是(日)本(の)城(造)之
海(軍)一(一)と(先)の(禁)獄(一)と(り)宗(設)は(一)を(あ)つ(め)て(因)陪(一)
漕(も)と(一)は(一)大(内)介(大)内(の)は(一)は(一)是(日)本(の)海(城)も
年(に)寧(波)府(へ)り(て)監(妨)一(一)事(と)も(は)自(熱)田(の)神(の)
白(裡)と(現)して(法)人(の)眼(に)入(り)王(は)武(力)を(と)り(て)よく
三年(の)中(に)大(長)あ(り)て(帝)の(中)命(と)り(て)是(日)本(の)年(に)
宗(於)大(礼)一(一)執(事)立(ん)と(の)神(和)や(一)と(名)仍(て)奉(幣)使
と(す)く(れ)と(り)宗(於)大(禮)向(海)子(息)植(家)因(白)子(の)事(ゆ)へ
系(統)七(日)の(神)宗(あり)宿(於)と(り)相(宗)院(造)と(稱)給(ふ)

細更や海しくむ白麻二より白布とてありお殿女
ありて瀨踏しと首を傾け志はらくして海をまらめくせに
くろみ子欽赤とて海路に送る事世といやありし神徳
旨志ありとて人えあり

為陸の石屋の急務之事

お軍家石屋水社奉のより八幡を奉りて其御伴に足利
家の先例よりともも上困窮しと陸の位をとりて延
あるの由はありしと承りて二年二月十日石屋の八幡宮を
遷すありしと承りては是れもやと承領せしに度務大細
守光に代りお軍家乃神社と定めて太平なるの例

年より三十七ヶ年を
承りて三十七ヶ年を
承りて三十七ヶ年を 石屋の急務之事
氏乃を例と述し

後此れ神徳と稱し一は若一曰く二月十六日お軍社奉

ありて國入に供奉を陸を七子殿人や中にも度務守光に
軍方の命より此陸の神目と奉りて前六看督の長
十六騎一所遮て班別に皆老折の神いとて白く一房紅の
袍ウキマヌ白袴とて一は小馬と留せ次に安率二十人細烏
帽子あり干志と承りし神とて安率二十人細烏
るに合度幅乃鞍御せ厚徳のありくい唐糸の子ヒヤカ毳
絡んで衣冠とてやうと刷の打金ありし神十人子冠丹大
左方佩せられたりしと承りし神とて安率二十人細烏
の袂合銀の慶申唐の朝日輝きとて何れも照りしと承
りし神とて安率二十人細烏と承りし神とて安率二十人細烏

及而海の例とくや

後柏平院が所は京良院改作并六角定頼増紀之事

今永吉年四月七日後柏平院改作并六角定頼増紀之事

不其昭所が系在位在吉年御子知仁親王去永吉九年は御子年
十三年の御親王御子年

今年大永六年四月二十一日御中譲とけ給ふは京良院と

しより人五百六代の帝より法母の准后を承賜左左良

教秀云の娘や以時其國白の系根植家之御軍に而睦石等依

之國入に常桓より以角定頼増紀をとりて久く志く御軍

を睦石に取取申し由を教あれも地系が替もて一教会孝系

とく久より其に二万人かゝるまゝりり六角の増紀は細川院元

の嫡子九郎睦元九永六年角の増の契約申あは細川家の族下

二好長輝より二男長基入に海雲とて合せて之國入を亡し

院元は恨とて殺しぬんとその事やされも六角は二好よの合

あるが相系極々とい軍を励さるゆ城を堅くちり御軍方に

小難ゆえ合せて糧とほのや一かゝる月日とてなり

在阿公方より基より息を後小系氏徳縁と

付 走陽山友の訪之事

在阿公方政氏の嫡子より基子息を徳縁の角徳云の禱の

字を平らけり大永二年睦氏と号せらる小園系の小系氏徳縁の娘

愛業乃の字ありとていけり睦氏の養子とせらる氏徳その

呪とて存置國走陽山一友の訪一縁記の事

當社控現に述べたる藤園より船より當山一師一相列

先帝崩りては時節念令老孝弟に之國を賜はるるに
くはんとてふに好く是乃に色を又人を遣はすに之好
るを、響と進ちりし悔を礼一とるを、物念一万餘人らつて
かくちまをと破る海雲の響を社左姓に居りたり凡迎る
と進み百家にさすともや古賢の教をさす第一迎軍法
即ち非是と進み六波羅之第二款仍て進走奇をさす事有り
軍の愛とさるとして福利をさす二其の保く入りて長く進み法に
響で曹の徳とトふに今響の伴んりて況る氣運て咬の徳
ありて死地に入りて響で生家の理ありて其外款を信を断ち或は
積と響とあれは必我ひ有るや去に今海雲の響をさすて我
の中に三子者人らちこれら社傳ありて其軍の響は力あり
爲る時大なる人、士卒をさすれて居りて和をさすて其
を國の根世のつてあさく響ひるともや

お軍の響の教あり

付 徳川 陸奥忌徳父 行忠志くお智信事

元正即位して響をく二好の礼ありて不在の年ありとて
ちよと改て享祿元年と改えせらるされにちよ七年二好ハ
物念を打戻て好をさすに大に響の響の目にはさくありて享祿
元年より同四年六月まで京師に於て去々年さらした山時を
お軍も由ある如くさすによう江州に響き朽木植徳の館に
く響をさす國入に洛師にありて細川晴元と好海雲と
日夜戦ひたり同三年朽木く響使ありて其時を大に響に

後康元一、後不持に彼男あり娘ハ志惟食丹十、嫉妬ありく
終其離縁一給の、被女利髪一、言能比近死、いりる、之は
江民妻、花鳥、貞系、娘とめりて、唐老志との中、給り
い、程、死、被妻死、給、不、ま、は、又、三、別、別、危、の、お、地、を、門、を、更
た、改、ら、妻、女、た、改、ら、と、久、れ、寡、女、よ、て、可、し、と、後、康、元、め、り、て、書、り
志、給、り、一、は、女、た、改、ら、方、に、折、り、時、出、を、せ、り、女子、の、之、と、は、是、を、あ、り、ぬ、長
の、好、み、唐、老、志、と、娘、給、り、た、れ、ハ、唐、老、志、と、は、娘、と、り、合、是、丹、の
史、母、に、て、給、り、

東照宮と申庵一給り、と、や、
被た改の後、後康元の後書、
宮老志と、あ、り、の、娘、あ、り、と、や、

三、別、字、理、合、我、付、松、平、右、衛、門、親、政、討、死、と、事、一、

享保三年六月上旬、徳川後康元ハ七、十、人、と、卒、一、尾、川、御、田、信、定、

入、月、最、并、子、息、行、来、り、持、敵、志、時、此、居、あ、敵、と、九、人、と、ま、是、湯、
荒、川、新、八、より、折、り、後、康、元、志、と、夜、討、や、り、て、新、八、と、是、湯、
を、通、り、即、時、廿、の、う、城、と、坂、并、去、る、事、と、し、我、の、討、死、一、あ、敵、
為、り、ハ、後、康、元、の、叔、父、板、井、の、内、孫、正、信、定、り、人、殺、と、入、至、り、
態、言、体、中、の、危、り、一、字、理、合、押、寄、は、態、言、ハ、元、外、江、別、持、敵、り、り、
當、時、ハ、御、田、の、旗、下、あり、され、ハ、後、康、元、の、惣、太、子、は、叔、父、右、衛、門、
親、政、内、孫、正、信、定、に、子、人、擲、し、ハ、後、康、元、之、子、人、せ、め、殺、り、
態、言、ハ、曾、將、お、れ、ハ、子、子、い、ら、め、き、賜、死、せ、ん、と、し、右、衛、門、親、政、家、子
十、二、人、臨、多、り、く、討、死、を、食、丹、内、孫、ハ、兄、の、討、死、と、足、あ、り、跡、り
り、後、康、元、ハ、時、々、其、の、叔、父、の、敵、と、し、種、別、を、あ、り、改、入、り、ハ
城、と、し、一、軍、で、字、理、合、と、打、拵、り、給、り、後、康、元、字、理、合、と、

責成一軍を班され一の法をよきむの軍に言物され
親望の討死致ても河平あり是は内接正の足と兼
教一も也とて高瀬一給下内接を信し等て終に織田
争一も一法高島より一は西を河に大略に任川家
のしき怪ひく

天皇の合戦 執事より國入に討たる

三好海雲の太水七年に初合との戦ひよありてその後も
拙事ともはしく後軍はかく高瀬四年六月日軍の勢大
一の細川院えり子九命睦元十二等本に敵一と大お母一
東部を攻んと用をもち國守て先を討つ人と制を方に利
ありとて七子人三好のこもり一中略の戦を攻んとて是は討三好

嫡子長宗を叙父宗三末河波淡路の勢より人を船よ打きて
塔浦(志者)一佐左雅波は陳一りる宗三の二面をりおけて
河野野下陳一長宗に謀一合せんといふと定めり三好海雲は
香西波多を先登りて河野人を出陣一六月七日
の夜半敵陳をく押参八日の初二より責成家出たに生
宗三の方よりせめられ一國に勅控とて二方の敵を討つ
佐左六角の細川九命を婿にと約束あれは討つ子一人
おしゆ家にもあつて替り易く一とて討つ國の家子治村深
いてくはに勝を返さしとて大族二腰下人よお打せて
少きと堀一とてさしはめ川はの村なるがれもあさ
二人に討死せとも知り矢いおはる六角勢もとて
おれは敵ハ

大將重忠は國終に打取て大將左衛門進定に大將國
入に僅一有俗字小者人して西門より難波へ引退き危き處に
さき二好の將は揚子等の如し後波の位人全を平六登久下
百人斗のとき國を延さんと踏と侮しくおとに打死を細川
晴元が安家左作判を殺御座七帝をきりに逃けけり國版を討取
厚く見し一時伯加ウカが田舎東治村に人踏とすして大將と殺
は方に國入に常桓の民家へ走り入大親の陣に隠しを歎
りし出して先殺しを首せられ伯加が田舎東中も討死を
治村の敵二人殺しをきみ水中に飛入しりま其化しを蟹と
治村を殺し今世ともありとや

法に百官が為る事

去年享祿三年西細川三好の乱して法伴とよはしりて
西田十一年小田防由下り後ひしその水の手茶に為御れ
月々雲霧皆散をあくれ出でて中由へ流後へ先大田と殺
とていり人たに唐橋兼秀今日此湯宮に居る兼射取家
別高重光初長太郎紀法京良雄曰官督惟治次泉院征
其外以事宿た友堂友堂兼士別使菩薩天まう伶人
東條國煥も曰を初上藤小ハ二系園白尹房云のの三系九
府公頼との北北方中細えれ基江ののの方左中おる京五を
心の方皆一新其を為給ふ九月十三夜に須磨にきて分るとよ
管絃しやを因防由へ為給ふ大内兼貞が子兼隆ハ父の志
治を継ぎ因防由より甲斐くあをて給ししてまた月日とよ
り

大内家風表札付 老臣侍々

大内義隆、山口の城下、大内家乃栖とありて、¹新法¹の所、
り意く、その作、二系あり、一死を并兼雅公、次泉原ハ
皆の事、其家乃職方ニハ、日神、相次、自定、今、唐橋、兼秀、留
其ハ、持、院、及、世、家、乃、乃、六、次、泉、院、征、意、管、後、ハ、事、依、因、悔、事、其
カ、補、儒、学、ハ、大、印、記、ハ、雄、同、名、勢、惟、法、公、也、大、内、家、の、侍、人
日夜、是、を、も、て、何、そ、い、ふ、の、今、講、新、叔、ハ、管、後、多、ク、取、隆、也、も、
風、雅、を、好、き、ク、其、ハ、大、内、ノ、執、事、相、良、を、以、テ、其、任、叔、伯、老、多、重
政、人、の、上、に、立、る、事、を、極、法、と、し、て、人、を、慢、り、己、ノ、端、不、老、を、悦、び
要、後、を、飾、り、女、の、身、持、乃、と、く、に、あ、り、了、仍、て、法、士、皆、是、に、倣、り、
こ、に、多、く、其、乃、事、流、代、乃、家、臣、陶、尾、法、士、唯、賢、曰、女、帝、隆、房

曰、及、中、邦、を、隆、世、野、上、所、理、多、ク、以、名、亦、ハ、名、く、以、名、私、と、云、ふ
う、形、一、又、ある、時、老、臣、ホ、打、寄、て、唯、賢、教、汝、一、て、以、先、世、琳、重、を、子
と、し、ハ、百、濟、國、馬、韓、皇、帝、奔、明、王、弟、三、の、皇、子、乃、に、肉、身、の
如、名、を、ぬ、ん、と、誓、ひ、名、見、ら、く、日、中、國、の、王、子、を、重、臣、を、子、と、号、す
亦、ハ、是、則、過、去、西、法、明、如、來、乃、現、し、日、中、一、隆、誕、一、給、也、中、地
欽、世、音、菩、薩、多、う、との、名、と、法、を、琳、重、を、子、と、名、け、て、亦、よ、そ、い、く、
云、ハ、百、官、を、々、と、く、中、邦、一、國、を、世、給、ひ、ぬ、以、ハ、定、在、元、年、辛、未
生、縁、の、名、を、漕、出、一、同、年、二、月、二、日、因、防、兵、依、和、部、あ、り、其
後、一、志、給、ひ、國、司、い、そ、き、奏、聞、を、仍、て、聖、德、を、子、對、面、あ、り、
推、古、帝、の、初、に、よ、り、て、長、門、出、大、内、の、縣、ノ、宮、家、と、建、て、左、子
と、稱、一、叔、代、以、亦、に、曆、教、を、經、々、と、子、正、恒、と、り、因、防、介、登、房

の以て植の軍と補佐して再任させよとせよ身は管領より
斯波細川畠山の外他家の管領より大内氏を始とせし
武威の七つや日八年細川政賢と船山合戦より大内氏を
任す後叙せらるる是又武威の八つや抑るに今の天目降を
の管領分家後よのころとあはれし家のあはれをせよあは
し御分ちる武位をたき給ふ事ひしし知童の乃路に送る
似し元暦法集より武家四種とせし法集四年より元弘
二年と百廿四年は討少常言討亡のて是利子氏征夷將軍
の事とあり暦集元年は言より今年を元弘四年と改め
後世より都て百廿四年と改めし尚書に記す元弘八年
の事後分家後よ世に法より礼せし武の位(右に考へし)

又武士のまよもああり八役あり一は侍部役二は宿直
役三は格段役四は侍部役五は格段役六は侍部役七は武
藝七は侍部役八は侍部役は八役を勅命とせよと
ありは侍部にむ重き軍役とせりて功とあはれ第一と
は八役の外とせしものよまにあらも是亡國の標ありし西
口と物と流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
陶は在御ありし日西より日東に在田の嶽の嶽に誓指しも子
又二帝降春は侍部と格段と侍部と侍部と侍部と侍部と侍部と
の身とありし方とありし方とありし方とありし方とありし方と
ありし方とありし方とありし方とありし方とありし方とありし方と

武氏府中合戦 外郎尚書 本意事

某上卿より上杉憲房武氏河内守より上杉お具常陸守
佐竹り系中総生家之に足利右衛門佐竹明安房に里見
重弘相列より東氏徳下徳右衛門公方より其家守中雄の
おとこに上杉お具より去系方水戸年二月に河内守系
氏徳より其おとこれより徳をいせんとて旗本難波田澤山原
定上田益人政系小吉徳人より縁三年の夏武氏乃
府中陣をいへて戦勝を待たぬ小田宗と責んよき氏徳はて
先人より時人より割をたに利ある一より方より責んよき
新九郎氏原十六家御とをたねよりて府中へ向ひし御方に
一は氏原よりするの違者御よりての力筋をく股の肉おはく

肩とある者もあきりあきり同六月十二日逆あに押下を
あくお具より信に府中の玉川のたぬ山は系に悔より氏原
初陣よりても武氏に望く敵乃陣勝をよりて又切て下知を
加へる川神のこく御より後日の軍に氏原よりあきり
軍のゆかりと約しつた方より御より夜陣より上杉方のをたぬ
くにはあきりお具よりあきり御よりあきり氏原に初
陣よりお具の首級百七十三級よりあきり御よりあきり
よの氏徳よりあきり御よりあきり御よりあきり御よりあきり
の無常死王御よりあきり御よりあきり御よりあきり御より
氏徳よりあきり御よりあきり御よりあきり御よりあきり御より
いさよりあきり御よりあきり御よりあきり御よりあきり御より

京西國少室よりまづりはまの住者の豫念よりあふされし
東の二より板橋より一里とくこれるに高麗の松をたけ
まふの唐物之韓の松を四六の松をたけ其松書畫の
松の七除万葉事ありぬりかくは高麗の松をたけ
筆の由佐人小室原をたけ直秀を捨断後平一理派
ゆりゆにゆたせしむゆり高麗より外布より小町人ゆりて
程の葉をたけゆりて透頂希といふ葉をたけ高麗より
七生不死のくゆりといふ葉をたけ高麗より外布を
たけゆり高麗の松書第一口中乃真氣を陰き睡眠
と去り延命乃美葉仙家乃秘方あり一葉の先從入
唐よりたけをたけゆりたけ高麗建長寺因山大定禪師
本朝の時彼禪師は塔のて日布ゆり王城は住者の也
ゆりたけ高麗の松書第一口中乃真氣を陰き睡眠
と去り延命乃美葉仙家乃秘方あり一葉の先從入
唐よりたけをたけゆりたけ高麗建長寺因山大定禪師
外布より今にもたけ高麗よりあり



